



最先端の情報技術で 高度先進医療をサポート

医療情報企画部では、下記を中心に現行情報環境の充実を図り、30年先の医療情報環境のあり方を示す研究開発を進めている。

- ①病院情報システム基盤の整備・運用
- ②病院運営企画サポート
- ③病院情報システムの研究・開発
- ④地域連携・遠隔医療支援情報システムの研究・開発
- ⑤医学研究・医学教育支援情報システムの研究・開発
- ⑥医療知識処理・経営情報分析の研究
- ⑦情報化社会における医療環境のあり方に関する研究

業務内容の特徴と実績

診療用・研究用の情報基盤を整備・運用

医療情報企画部は、京大病院のあらゆる情報化の中核セクションとして機能している中央診療部門であり、1970年に国内で最も早く設置された。院内の臨床活動を支える電子カルテを含む病院情報システムにとどまらず、院内の手術映像・教育コンテンツデジタル配信環境や研究用ネットワークの整備運営、院外の患者・関連診療機関との臨床共有基盤まいこネットの整備運営など、京大病院の活動を支えるあらゆる情報基盤の整備・運営を行っている。

臨床データの管理・活用

院内の各研究グループが構築した研究用データベースと診療用の電子カルテデータベースを有機的に結びつけ、診療業務の中で臨床研究情報を収集し、集積した研究データを安全な病院情報システム上で管理できる情報環境を開発・運営している。また、臨床データの医学研究などへの二次利用を支援するデータ抽出業務を行うとともに、情報検索・分析環境の研究・開発も行っている。

病院経営に関する情報分析、システムの開発・運用

病院の経営面での意志決定に必要なデータの作成や企画立案を通じて病院執行部意志決定サポートを行う運営企画室を主宰するとともに、診療科別・疾患別・スタッフ別の収支を算出する経営分析システムの開発・運用を行い、得られた分析結果を利用して、病院の短期・中期・長期の運営計画の策定などを支援している。

情報リテラシー・医療情報学教育

病院の情報管理ユニットとして、院内スタッフへの情報リテラシー教育活動に加え、医学部生への情報フルエンシー教育、医学研究科大学院生への医療における情報処理研究指導、情報学研究科大学院生への情報技術の医療応用の研究指導を行っている。



高度先進医療の取り組み

高度情報化技術の医療

高度情報システムを開発し、

情報化社会における医療環境のあり方に関する研究

融合現実感(Mixed Reality: MR)、モノのインターネット(Internet of Things: IoT)、ユビキタスコンピューティング(Ubiquitous Computing: ubicomp)等の高度情報通信技術によって、院内や地域での臨床活動、研究活動、医学教育活動を支援する情報システムの研究・開発を行っている。また、これらの情報システムから得られたデータ

に、言語処理・知識処理・画像処理技術を適用して、医療知識、病院運営情報、仮想臓器などを取得する手法の研究・開発を行っている。加えて、これらの情報通信技術が現実のものとなったとき、導入するための社会的受容を醸成するプロセスや、医療を取り巻く社会的制度等を組み立てていくべきかについての考究も行っている。これらの研究活動を通して、情報革命を経て「情報機器がそこにある」ことが当たり前の情報化社会に適合した、「さりげなく情報支援」してくれる情報システムや、社会的医療環境のあるべき姿を創出することをめざしている。